

授業科目名	音声病理学	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	久野 佳也夫	単位	2	年次	2

＝授業のテーマ及び到達目標＝

音声によるコミュニケーションの病的障害がテーマであり、将来発声指導にあたる場合身に付けておくべき基礎的知識を理解することを目標とする。

＝履修の条件と学習の方法＝

受講以前の予備知識は不要。講師の声は大きくないので私語は慎むこと。講義内で説明することに関する設問に回答を提出することで出席を認定する。設問の内容、回答の提出方法は第一回講義で説明する。毎回到わり、授業中の質問を歓迎する。

＝授業の概要＝

講義の内容は以下の二段階にわけてある

- 1～6回 発声の基礎となる健康をささえる諸因子
- 7～14回 病的変化をうけた音声の変化

＝授業計画＝

- | | | | |
|-----|-------|---|---------------|
| 1回 | 声の健康 | 1 | 声の衛生 |
| 2回 | 〃 | 2 | 音声治療 |
| 3回 | 〃 | 3 | 温度と湿度 |
| 4回 | 〃 | 4 | 酒と薬 |
| 5回 | 〃 | 5 | タバコと煙 |
| 6回 | 〃 | 6 | 栄養と健康 |
| 7回 | 病気と声 | 1 | 病気から快復するための栄養 |
| 8回 | 〃 | 2 | カゼの成り立ち（炎症） |
| 9回 | 〃 | 3 | カゼの治療 |
| 10回 | 〃 | 4 | 声帯ポリープ |
| 11回 | 〃 | 5 | 喉頭麻痺 |
| 12回 | 〃 | 6 | 聴覚障碍 |
| 13回 | 〃 | 7 | 心理的障碍 |
| 14回 | 〃 | 8 | 様々な音声障碍 |
| 15回 | 設問回答例 | | まとめ |

＝テキスト（必携）＝

必携テキストは指定しない。

＝参考書・参考資料（必携）＝

毎回の講義で講義内容の簡単なレジュメを配布する。他の参考資料としては、付属図書館の棚C-15 分類番号767の付近にある書籍が有意義である。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

学期末の提出期限内に学務課に提出された「過度の発声で声をいためた時の発声練習で注意すべき点とそれが有効な理由を述べなさい」という課題に対するレポートによって行う。

採点基準：Ⅰ 正確な知識と論理的考察

Ⅱ 自分の体験や他者の経験を生かしているかどうか

Ⅲ 自分なりの独自の視点があればなお望ましい

期末レポートの枚数、印刷か手書きか、についての制限はないが レポート用表紙をつける必要がある

=その他=